

AJU愛実

編集：認定特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／紙風船)

定価：一部100円

第64号 会報

福祉の創造 共生社会の実現に向けて/ 理事長 戸田 真二	… P1
2025年度事業報告・2026年度運営方針	… P2
2025年度活動計算書	… P3
愛実の会懇親パーティー ～成人の門出を祝して～	… P4
全体研修会	… P5
20周年事業プロジェクト	… P6
大地の家（生活介護）	… P7
紙風船（生活介護）	… P8.
いま沖縄で！！/ 島 しづ子	… P9
寄付者名簿	… P10



懇親パーティー『MEDI maison de farmer』にて

福祉の創造 共生社会の実現に向けて

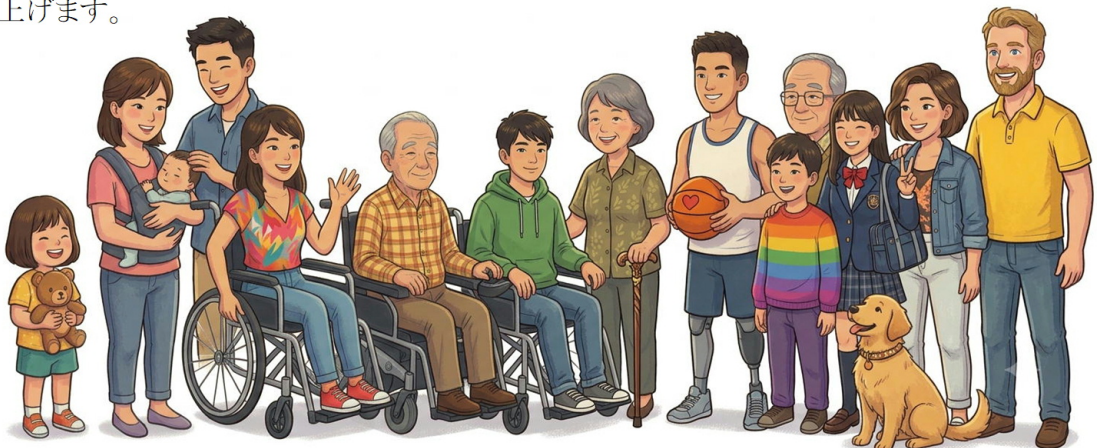
理事長 戸田真二

近年、「共生社会」という言葉を耳にする機会が増えました。それは決して遠くにある特別な理念ではなく、私たちが日々の暮らしの中で大切にしてきた「困っている人がいたら声をかける」という、当たり前の思いやりの延長線上にあります。私たち「愛実の会」の現場では、障がいのあるメンバー（利用者）の小さな変化に寄り添いながら、誰もが安心して過ごせる環境づくりを進めています。相手の立場に立ち、違いを受け止める「寄り添う」姿勢こそが共生社会の基盤であり、地域のつながりを育てる力になると信じているからです。

そして今、私たちが地域の皆さまと共に、特に重視して取り組んでいきたいのが、災害時における「共助の力」を地域で育てていくことです。南海トラフ地震をはじめとする大規模災害のリスクが高まる中、行政の支援だけで命を守るのには限界があります。私たちの施設は名古屋市港区木場町にあり、名古屋港から約2キロの場所に位置しています。ここでは津波想定が3メートルで周辺は100%液状化地帯です。命を守るための上階への垂直避難は絶対ですが、車イスのメンバーにとって階段での避難は極めて困難です。

災害時における障がい者の死亡率は一般の2倍とも言われており、避難生活や関連死のリスクを前に、ご家族の間には「いざとなったら、もうあきらめるしかない」という悲しい感情すら生まれているのが現実です。なぜ、このようなあきらめが生まれてしまうのでしょうか。それは、いざという時に「助けて」と素直に言える関係や、それに対して「任せて」と応えられる関係が、まだ地域の中で希薄だからです。同じ街に福祉施設があっても、そこでどんな人が生活しているかを知る機会がないまま時間が過ぎている現状があります。

共助の在り方は、地域の中の自然な助け合える関係があってこそ成り立つものです。支援が必要な方々が取り残されずに安心して避難できる地域は、お年寄りや子どもたちなど、すべての住民にとっても安全で優しい地域であると言えます。日頃からの交流を大切に、行事や活動を通じて「顔の見える関係」を深めること。こうした温かな関わりこそが、災害時に命を救う、最も崩れることのない確かな土台です。これからも愛実の会は、誰もが自分らしく生きられ、災害時にも互いに支え合える地域づくりに取り組んでまいります。皆さまの温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



2025年度事業報告

愛実の会は当法人の理念にのっとり、重度の障がいのあるメンバーのサポートに力を入れて、彼らが安心して充実した地域生活を継続的に送ることが出来るよう、下記の3つの事業に取り組んでいます。

(1) 生活介護事業 (障がい者デイセンター愛実:大地の家・紙風船)

契約メンバー数 33名(2026年3月31日現在)1日平均 15.4 名の利用(定員20人)

2025年度は、感染症・食中毒等のまん延対策は継続しつつ、活動については外出活動の制限を撤廃し、メンバーの笑顔を大切に寄り添う支援を実践した。

(2) 居宅介護・重度訪問介護 (居宅介護事業所あみ)

ホームヘルプ(身体介護、入浴、通院、外出支援、家事等)を行い、安心できるサービス提供を行った。重度訪問介護については、地域自立生活支援として24時間のケアを実践した。またシェアハウスへの支援を継続的に行うことができた。

(3) 独自サービス事業

- ① 独自サービス(デイサービスの延長:朝・夕、入院時付添い、通院・外出時の車移動)の実施。
- ② シェアハウス「COPAIN」月～木の3泊4日利用を繰り返し、メンバーも安定した共同生活が確立してきた。地域生活のモデルとして、支援体制は重度訪問介護を活用し、日中は生活介護と連携しながら、法人独自のモデルを実践中。2022年9月開始から3年半が経過した。

★ 支援体制について 総数36名(2026年3月31日現在)

正職員18名、嘱託職員 1名、パート等17名(生活支援員・看護師・給食・ドライバー・ヘルパー等)

※ 詳細については、愛実の会ホームページより、見える化→2025年度事業報告を参照ください。

2026年度 愛実の会運営方針について

① 愛実の会20周年事業プロジェクト テーマ:～未来の扉を開くために～

- ・ 20周年イベントの実施
- ・ 記念誌の発刊
- ・ デイセンター愛実大規模修繕
- ・ メンバーの将来の地域自立生活支援の具現化

② 職場環境の改善

- ・ 1on1ミーティングの実施
- ・ コミュニケーションを重視し、チームワークの強化及び部署間協力体制の構築

③ 地域共生社会の実現に向けて

- ・ 広報活動及び地域との交流の機会を促進
- ・ 防災への意識を高め、地域共助の構築
- ・ 共生社会の実現に向けた地域連携
プログラム「ともいき研修」の実施



2025年度 特定非営利活動に係わる事業会計 活動計算書

2025年4月1日～2026年3月31日

特定非営利活動法人 愛実の会

科 目	金 額		単位:円
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	129,000	129,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	1,905,468	1,905,468	
3. 受取助成金等			
受取助成金	4,769,200	4,769,200	
4. 事業収益			
1)生活介護事業収益	114,146,317		
生活介護事業	88,592,282		
重心補助金	22634700		
食事収入	2,768,235		
就労支援事業収入	151,100		
2)居宅介護事業収益	44,852,588		
3)愛知県職場環境改善事業費	992,116		
4)移動支援収入	0		
5)独自サービス事業収益	1,371,554	161,362,575	
5. その他収益			
受取利息	96,334		
雑収益	562,554	658,888	
経常収益計			168,825,131
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	79,014,590		
賞与	12,957,827		
法定福利費	12,931,935		
福利厚生費	1,169,924		
人件費計	106,074,276		
(2)その他経費	38,283,456		
事業費計		144,357,732	
2. 管理費			
(1)人件費	12,015,116		
(2)その他経費	4,221,521		
管理費計		16,236,637	
経常費用計			160,594,369
当期経常増減額			8,230,762
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			8,159,762
前期繰越正味財産額			79,754,500
次期繰越正味財産額			87,914,262

※貸借対照表はWeb:愛実の会ホームページ及び内閣府NPO法人ポータルサイトより「愛実の会」検索にて閲覧することが出来ます。尚、皆様から頂いた寄付金は、①アシスタント支援体制強化費 ②紙風船夢づくり(新作人形劇制作)等のために活用させていただきました。2025年度は143名の方から寄付を頂きました。感謝を持ってご報告させていただきます。

愛実の会懇親パーティー ～成人の門出を祝して～

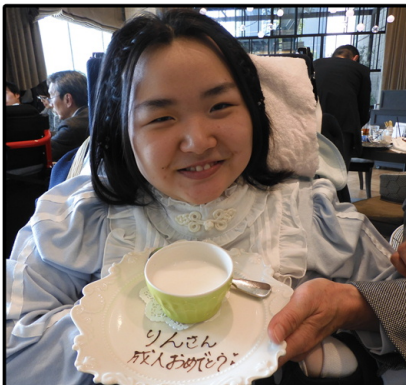
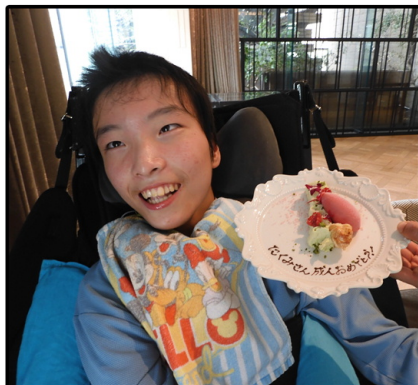


2026年3月26日(木)にささしまグローバルゲートのフレンチレストラン『MEDI maison de farmer』を貸し切って、成人祝会と懇親パーティーを行いました。

愛実の会では長い間、メンバーが成人を迎えることを大切にお祝いしていました。新型コロナウイルスが蔓延し、その間は皆で集まることは避け、新成人のお祝いも集合形式で行うことはできませんでした。コロナ禍を経て、約10年ぶりに集合形式での開催が叶いました。

2025年度は4名のメンバーが20歳になりました。当日は、美味しい食事や楽しい催し物であったという間に時間が過ぎてしまいました。食事については、普通食以外に刻み食も用意していただき、色鮮やかで美味しい食事をメンバーが楽しみながら食べていたのが印象的でした。お祝い動画や当日の参加メンバー、アシスタント紹介動画はもちろん、恒例の大ビンゴ大会の催しもありました。1等はペアのディナー券、参加賞はロクシタンの石鹸と豪華景品で、メンバーや家族の壁を越え、参加者全員で盛り上がっていました。20歳の節目を盛大にお祝いし、愛実の会全体の親睦を深められた有意義な懇親パーティーだったと思います。当日は、メンバー11名、ご家族15名、理事1名アシスタント24名の計51名の方が参加されました。

愛実の会には、まだまだ成人を迎えられるメンバーがいます。今後も、成人祝会や集合形式の場で愛実の会関係者の親睦を深めていきたいと思っていますので、ご協力をお願いします。



成人おめでとうございます

愛実の会 職員全体研修会

日 時 2026年4月29日(水・祝)

参加者 アシスタント:23名

《プログラム》

午前の部 全体ミーティング

- ①理念の共有 ～寄り添うこと～
- ②運営方針&20周年プロジェクト
- ③新年度 各部署の目標の共有
- ④職場環境改善への取り組み

午後の部 専門研修

- ①ブラインド福祉体験 (不安VS安心)
- ②One All Oneミーティング
- ③きづきノートについて
- ④サービス提供記録の効率化(AI導入)

★ブラインド福祉体験

- 3人1組 ①主人公(目隠し)
②伴走者(ロープでつながり誘導)
③観察者(口出し厳禁)

ルール&コース

- ・施設内の障害物を避けて屋外へ
- ・スロープを下り、階段を上がり玄関でゴール
- ・必ず主人公が先にゴールする
- ・すべての役を交替して体験する

- NG ①伴走者が主人公の身体に触れること
②ロープを引っ張ること
③伴走者が先にゴールすること

★参加者の振り返り

- ・声掛けで安心したり、相手を信頼していないと自分を任せられないと思いました。
- ・当事者がどう感じているか考えるきっかけになりました。相手に寄り添うことの難しさを感じました。
- ・相手の立場に立つとよく言われますが、今回の体験で身体感覚として再認識することができました。
- ・視覚による情報が得られない中であと〇歩やあと〇段登りますといった具体的な数字をあげてもらうことで、見通しがたち、不安が和らぎました。



「寄り添いは、伴走者として共に歩む最大のアイテム」

「寄り添う支援」は成果が見えにくい支援であるからこそ価値があります。寄り添いは、観察、解釈、予測、調整、安心の提供という高度な専門性の集合体であり、重度の障がいがある方ほど、寄り添いの質が生活の質を大きく変えます。

私たちの支援は、成果の大きさではなく、共に生きる姿勢によって価値が生まれます。言葉にならない思い、小さな反応、ゆっくりとした時間。そのすべてに寄り添い続けることこそ、共生の理念を最も深く体現する行為です。寄り添いは、伴走者としてその人の人生に共に歩むための最大のアイテム。今日も、誰かに寄り添う支援を、静かに、誠実に積み重ねていきましょう。

愛実の会20周年事業プロジェクト

テーマ ～未来の扉を開くために～

愛実の会は、2007年1月に「愛実友だちの家」「大地の家」「紙風船」の三つの小さなグループが合併して誕生したNPO法人です。2010年には港区木場町へ統合移転し、障がい者デイセンター愛実として新たな歩みを進めてきました。そして来年1月、法人設立から20周年という節目を迎えます。この20年間、障がい者福祉制度は大きく改革が進み、福祉の領域にも「選ばれる事業所づくり」が求められる時代となりました。サービスを利用する方にとっても、働くスタッフにとっても、魅力ある施設であることが重要になっています。そのため、愛実の会としてのブランド価値を高めることが、これからの運営に欠かせない要素となっています。

法人理念に掲げる「共生社会の実現」を軸に、未来へのビジョンをより明確にし、愛実の会が“選ばれる理由”を育んでいくこと。これを20周年の大きなテーマとして位置づけ、次の時代に向けた取り組みを進めてまいります。

★ プロジェクト計画 NEXT-3

1. デイセンター愛実大規模修繕の実施

外装:外壁・屋上の塗り替え工事

内装:照明:空調機器の取替え・活動室の環境整備

予算:1,500万円 2年間で500万円を目標に寄付を募ります。ご協力をお願いします。

★内装工事ではアクティブに動けるよう活動スペースを広げ、ゆったりとした空間を整備します。

★地域交流の拠点として、地域に開放された場を目指していきます。

2. 20周年記念イベントの実施

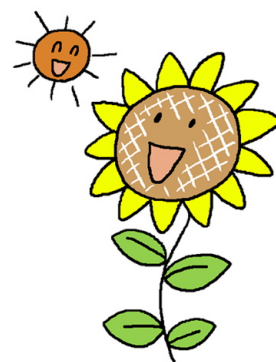
日時:2027年10月 場所:クロコくんフォーラム(旧ガイシフォーラム)

記念誌:「未来の扉を開くために」の発刊

3. メンバーの将来の地域自立生活支援

・愛実の会のブランディングを基に、各事業における3年後の姿を創造

・新たな、事業拡大の必要性についての模索



2026年6月1日

障がい者デイセンター愛実の外壁塗り替え工事が完了し、きれいな建物になりました。地域交流の拠点として、皆様の来訪をお待ちしています。



大地の家

(生活介護)

「共食」の再開と新たな大地の家の風景

私が愛実の会で働き始めて20年余りが経ちます。入職当初から、私たちはメンバーとともに「同じものを、同じ空間で、同じ時間に食べる」ということを大切にしてきました。

食事は、メンバーにとって一日の大きな楽しみのうちの一つです。楽しい時間を共に分かち合うことで豊かなコミュニケーションが生まれ、そこにいる人々の笑顔を引き出す力があると信じているからです。

しかし、2020年に新型コロナウイルスが蔓延し、食事風景は「共に分かち合う時間」から「個々に分かれる時間」へと一変しました。当たり前だった温かい食事の時間が奪われてしまったような喪失感に襲われたことを今も覚えています。

それから6年という月日が流れ、別々に食事を摂ることが常態化しました。それでも心のどこかで、以前のような賑やかな食事の時間に戻ることをずっと切望していました。そして2026年4月、ようやく感染症対策が緩和され、対面での食事と、アシスタントとメンバーが同時に食事を摂ることが解禁となりました。

この6年の間に、通所を開始されたメンバーや、新たに入職したアシスタントもいます。彼らにとっては初めての「対面での食事」です。私たちは過去に戻るのではなく、「これから新たな大地の家の食事風景を作っていくのだ」という思いで、介助にあたりました。

最初はぎこちなさもありました。以前の賑わいを知るメンバーは満面の笑みを見せてくれましたが、初めての経験となるメンバーは、少し戸惑った様子も見せていました。メンバーもアシスタントも、それぞれに思いを抱えながらのスタートでした。

形態が変わってから3か月が経った今、少しずつ慣れていき、ようやくスムーズに食事の時間を共有できるようになってきました。

現在は体制的に外出活動が難しいですが、日々の生活の中にも、こうして新たな取り組みを通じて、メンバーに新鮮な刺激や喜びを感じてもらえたらと願っています。これからも、食卓を囲む日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。





紙風船

(生活介護)



イエローレシートキャンペーン復活

6月11日(木)イオンモール大高にて約7年ぶりとなる「幸せのイエローレシートキャンペーン」の店頭呼びかけ活動に行きました。当日は前半組と後半組に分かれて合計約2時間にわたる呼びかけ活動をしました。店頭の入口付近に立ち、お買い物中の方々へ向け元気よく協力と呼びかけました。久しぶりの実施でしたが、お買い物中の方々が「頑張ってるね」と温かい言葉をかけながらレシートを投函してくださるたびに、自然と笑顔がこぼれてきました。本当に多くの方々が足を止めてくださり、最終的には用意したボックスがたくさんレシートでいっぱいになりました。また自由時間には、館内の散策もして、普段の活動中とは一味違う時間を楽しむことができました。

今回、皆様からお預かりした温かい気持ち(レシート)は、今後の私たちの活動を支える大切な資材へと還元されます。ご協力いただいた地域の皆様、そして場所を提供してくださったイオンモール大高の皆様にご心より感謝申し上げます。これからも人形劇を通して地域の皆様に夢と笑顔を届けて行きます。

ありがとう ひまわりホール



紙風船が毎年参加させていただいていた「ひまわりホール子どもアートフェスティバル」そのひまわりホールが6月で閉館となることが決まり、今年度の参加が最後となりました。最終演目は紙風船の代名詞ともいえる「ボーちゃん」でした。私たちは人形劇を通し、心を込めて精一杯、観客の皆様へ紙風船の想いを届けてきました。最後の公演も、様々な思い出が紙風船みんなの胸を駆けめぐった20分間となりました。

毎年お声がけくださった愛知人形劇センターの皆様方にも心より感謝申し上げます。紙風船は、この経験を糧にさらに羽ばたいていきます。



公演依頼募集中です！紙風船の活動は上記QRコードをチェック！

いま沖縄で！！

島しづ子

みなさま、愛実の会にご協力ありがとうございます！

1987年から名古屋に住む重度心身障がい児の親たちが集まって、養護学校に通っていた子どもたちのために、彼らの卒業後の居場所作りが始まりました。土曜日ごとに子どもを伴って集まり、夏休みにはサマースクールを開催しました。親たちの冒険をボランティアさんたちが支えてくれました。活動の中で、先輩の親たちが作ったいくつかの施設を見学しました。不便極まりない家で活動している様子に、開設する場所にも苦勞することを思い知りました。

愛実の会が始まったころ、土曜日に集まると改革派八事教会の方々が手伝ってくださり、親たちに「たまにはお茶でも飲みながらゆっくりしてください」とくつろぐ時間を作ってくださいました。それからランチづくり、合宿の手伝い、コンサートへの出演・手伝い、会費や献金協力と数えきれない方々に支えて頂きました。みなさま、ありがとうございます。

ライフワークと思っていた活動をすべてお任せして沖縄に来て6年が過ぎました。名古屋を離れる時、愛実の会を会場に講演会を開いて頂きました。その時愛実の会のメンバーさんも何人か参加してくださいました。講演をしながら、私はあることに気が付きました。私はお母さんたちやアシスタント、ボランティアさんたちと、子どもたち(もうみんないい年になりましたが)のために働いてきたと思っていました。が、実はメンバーさんたちこそ私を見守り、育ててくれたことに気が付きました。もし、娘の陽子や陽子のお友だちが私のそばにいてくれなかったら、今の私はいません。陽子たちは私の手足を必要とするという形で、私の人生を豊かにしてくれました。今自分が他者の助けを必要とするにつけ、メンバーさんたちの姿を思い起こしては助けられています。どうどうと世話になり、願った通りではない介助でも我慢し、我慢できなければ全身で拒否して訴え、忍耐の日々をたんたんと送るメンバーたち。老い行く私には先輩です。

今、沖縄では戦争準備が急ピッチで進められています。この現実を知らせたいと現場の写真を撮り、記事を書き、絵を描いています。福祉の現場を離れましたが、戦争は弱い存在をより生き難くしますから、残る仕事は、戦争を回避する道を訴えることだと思っています。弱い存在を尊重する思想が育つためにどうしたらいいのか考えています。福祉の現場を離れましたが、福祉の現場を日々思いながら活動しています。

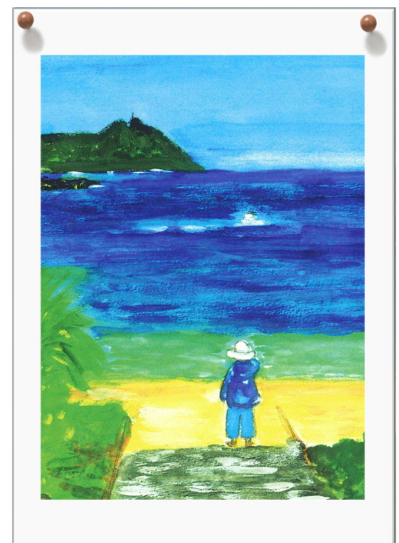
今年8月20～25日福岡アジア美術館・交流ギャラリーで

「おきなわ写真&絵画」二人展『基地の島々』

沖縄のリアルを見つめる わたしたちは

このまま戦争への道を辿るのか！？

と題した展覧会を友人たちが企画してくれています。広い会場なので大きな絵を描いています。福祉は弱い者が中心。戦争は強者中心です。選ぶべき道は前者以外にありえませんか。みなさま、どうぞお元気でお過ごしください！



NPO法人愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)

2026年3月1日～2026年 6月30日

★ 寄付金

伊藤 秀章
佐藤 義子
普天間 ともえ
藤井 幸子
古田 正明
上泉 淳子

佐藤 仁彦
田平 智子
佐藤 眞理子
島田 恵子
加藤 勝敏
栗原 健

阿部 健二
佐野 都吾
有村 良子
五十 嵐靖
戸田 真二

教団)西尾教会婦人会
教団)愛知教会女性の会
中部学院大学

教団)名古屋中央教会
学校法人金城学院
在日大韓キリスト教会小倉教会

教団)金城教会社会福祉委員会
教団)名古屋桜山教会婦人会

★ 夢づくり

津田公子
栗原 健

渡邊 誉

山田美紀



★ 物品寄付

名古屋ワイズメンズクラブ・南山ハーベストクラブの皆さん

2026年度寄付金目標額250万円

2025年度の寄付金目標額160万円～に対して、3月末で1,905,468円の寄付金が集まりました。皆様のご協力ありがとうございました。

2026年度は20周年プロジェクト事業として、デイセンター愛実の大規模修繕を行います。修繕積立金として、2年間で500万円の目標を掲げています。皆様のご支援をお願いします。

当法人は、名古屋市が認定した『認定NPO法人』です。公益事業を行う法人として、税制面で優遇を受けています。寄附をしていただいた翌年の確定申告時に、当法人が発行する寄附金受領証明書を添付することにより所得から控除を受けられます。お送りしました寄附金受領書は確定申告まで大切に保管をお願いします。

福祉車両を導入しました



この度、日本財団様の助成事業により、福祉車両（トヨタ ハイエース）を導入しました。メンバー、アシスタント共に大変喜んでおります。
引き続き安全運転を心掛け、日々の送迎や活動で大切に活用させていただきます。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

E-mail info@aminokai.com

ホームページ <http://www.aminokai.com>

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1000円 何円でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・土地建物修繕積立等に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）